

つるがらみの木を伐倒した際、 伐倒方向が変わり、 退避が遅れたため巻き込まれた

災害概要

- ▶原因：つるがらみ ▶発生月：10月 ▶FW研修：3年目 ▶年齢：49歳
▶受傷部位：左足向こうすね ▶傷病名：骨折 ▶作業内容：間伐、伐木

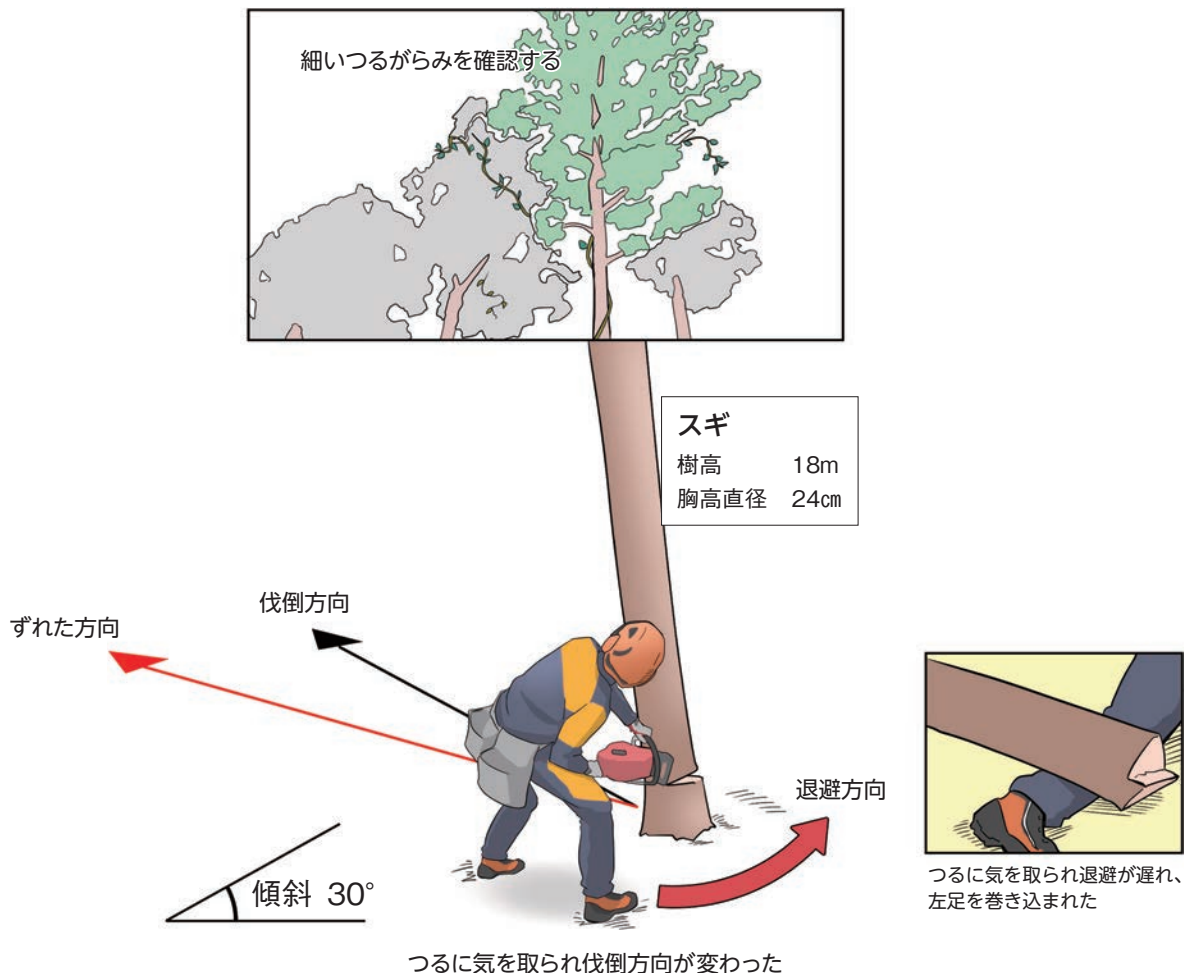
発生状況

傾斜30度。スギ人工林の間伐作業(直径24cm、樹高18m)。

チェーンソーで伐倒中、伐倒木に細いつるが1本あり、つるがらみ状況を確認後、細いつる1本だけなので支障ないと判断し伐倒に入った。

伐倒方向が予定と変わったが、つるに気を取られていたため、退避が遅れて、伐倒木に左足を巻き込まれた。

研修生が自力で元玉部分を切断し、足を抜いて助けを呼んだ。



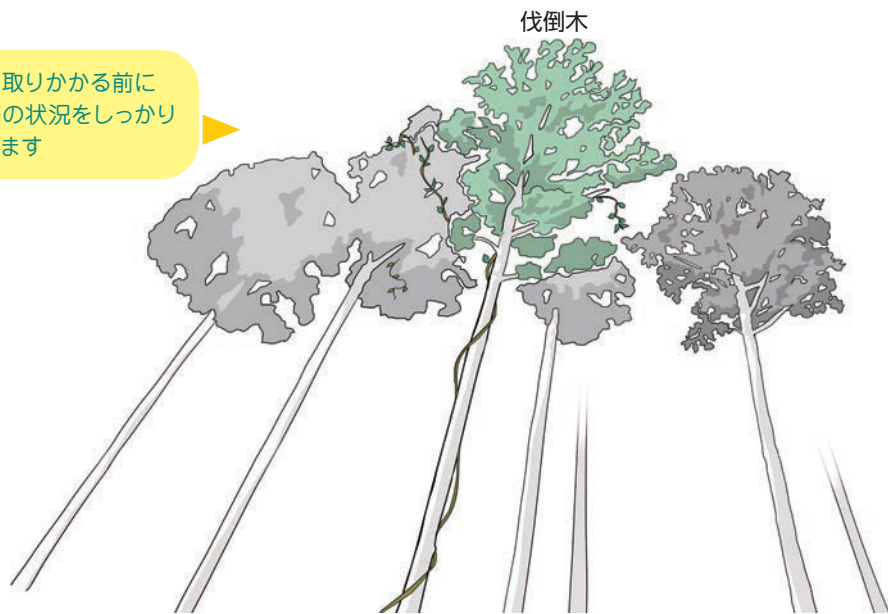
 **原因**

つるによる伐倒方向の変化。

 **再発防止対策**

- 伐倒木の上方、隣接木を確認し、枝がらみ、つるがらみを確認する。つるがらみを処理した後に伐倒する。
- 伐倒前に退避場所と退避路を確保する。
- 伐倒木が倒れ始めたら速やかに退避場所に退避する。
- つるがらみの木は、ウインチやチルホールを使用して安全に処理する。

伐倒に取りかかる前に上部等の状況をしっかり確認します



つるがらみの確認

つるの外れやすさ、退避経路、退避場所を考慮して、安全な伐倒方向を決定



伐倒前につるがらみを外しておく



伐倒前にできる限りつるがらみを取り除きます。また、伐倒を開始する前にしっかりと退避場所を選定し、立木が倒れ始めたら速やかに退避します

つるを取り除き、退避場所を選定する

つるがらみの広葉樹を重機でけん引した際、木が浮き上がり元口が振れて作業者に接触した

災害概要

- ▶原因：つるがらみ ▶発生月：7月 ▶FW研修：3年目 ▶年齢：32歳
▶受傷部位：左足すね ▶傷病名：打撲 ▶作業内容：皆伐、伐木

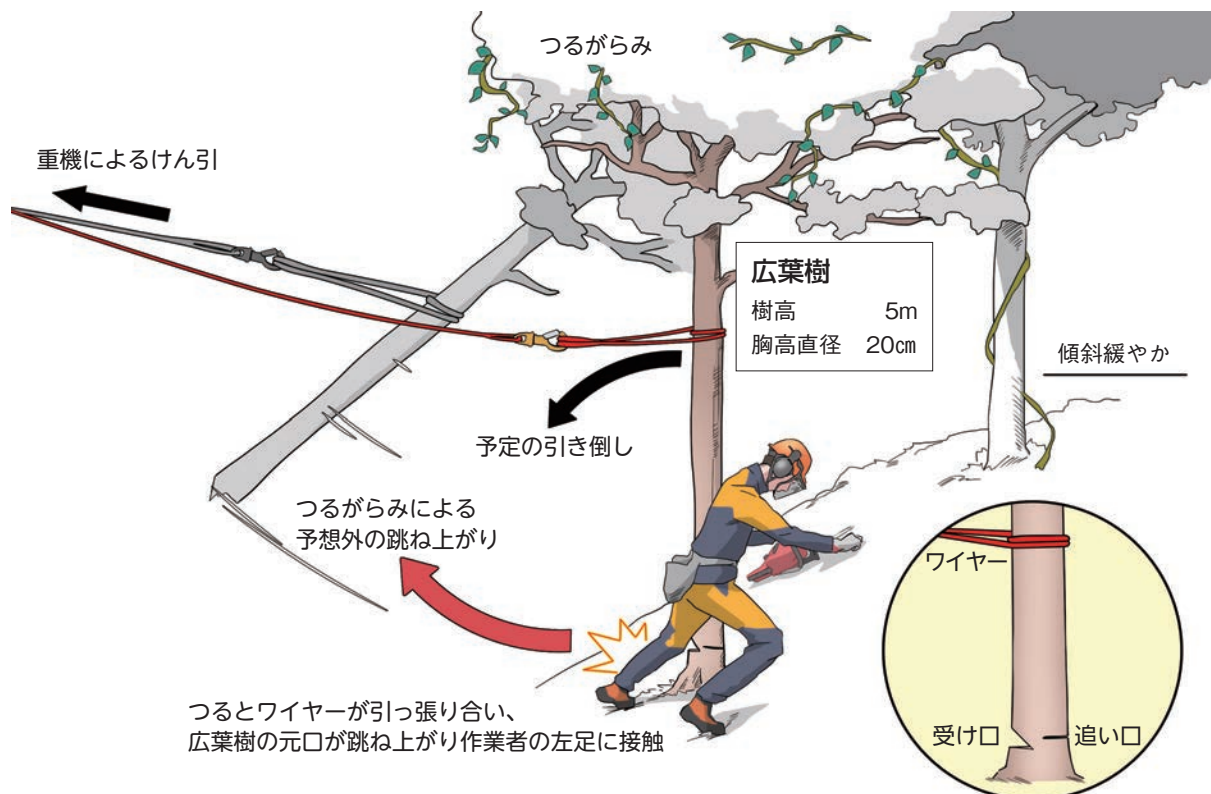
発生状況

緩斜面。市道側に傾いた広葉樹を道と反対側に倒す作業（胸高直径約20cm、樹高約5m）。

重機を使ってワイヤロープで引き倒そうとし、研修生がチェーンソーで受け口、追い口を入れて退避し合図をした。

従業員が重機でワイヤロープを引き、伐倒する広葉樹が倒れ始めたとき、広葉樹と上部でつるでつながっていた別の広葉樹があり、重機とつるつながりの雑木の間で広葉樹が浮き上がる状態となった。このため、広葉樹の元口が動き研修生の左足のすねに接触した。

作業終了まで従事して帰宅したが、翌日の午前4時頃に痛みがひどくなり、腫れもひどくなったので病院で診察を受けた。

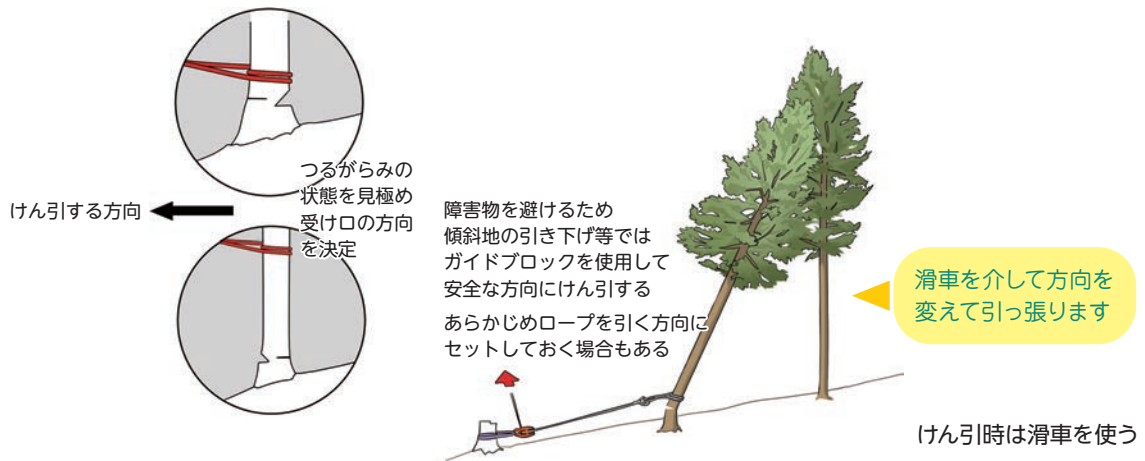
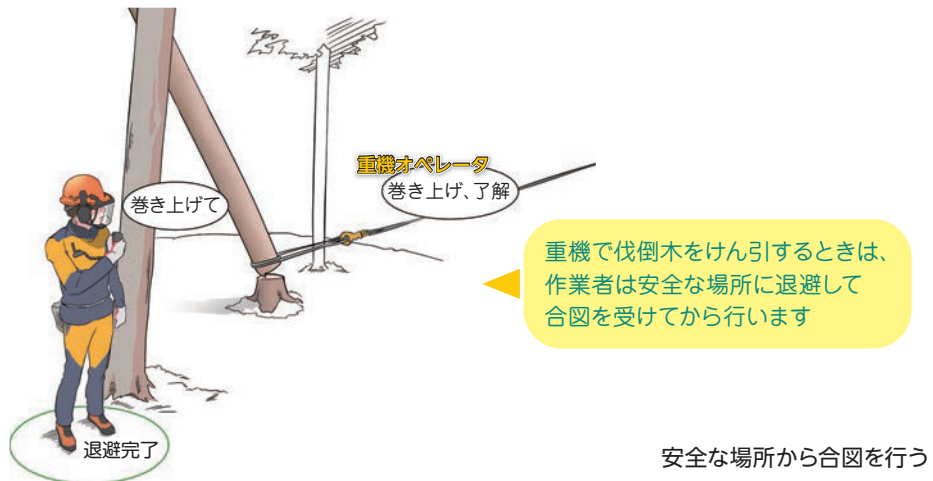


原因

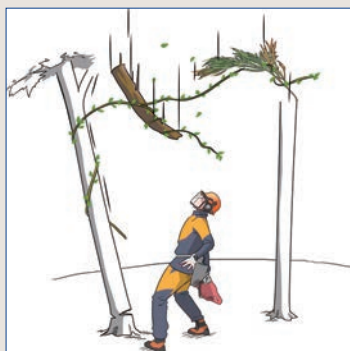
つるによる伐倒木の浮き上がり。

再発防止対策

- 伐木作業前につるの状態を確認。
- ワイヤロープによる伐倒にあって根元の動きを想定した退避を実施する。
- 重機使用による伐木の場合は特に作業開始、退避確認などの連絡を綿密にする。



注意ポイント



落下物や飛来物の危険もある

つるがらみの木を引っ張ると折れた木が落ちてきたり、別のつるがらみの木が抜けて飛来した枝が激突することがあるので注意が必要です。

つるがらみした枯れたマツの処理中に伐倒木が倒れてきて背中に当たり、左胸を骨折した

📎 災害概要

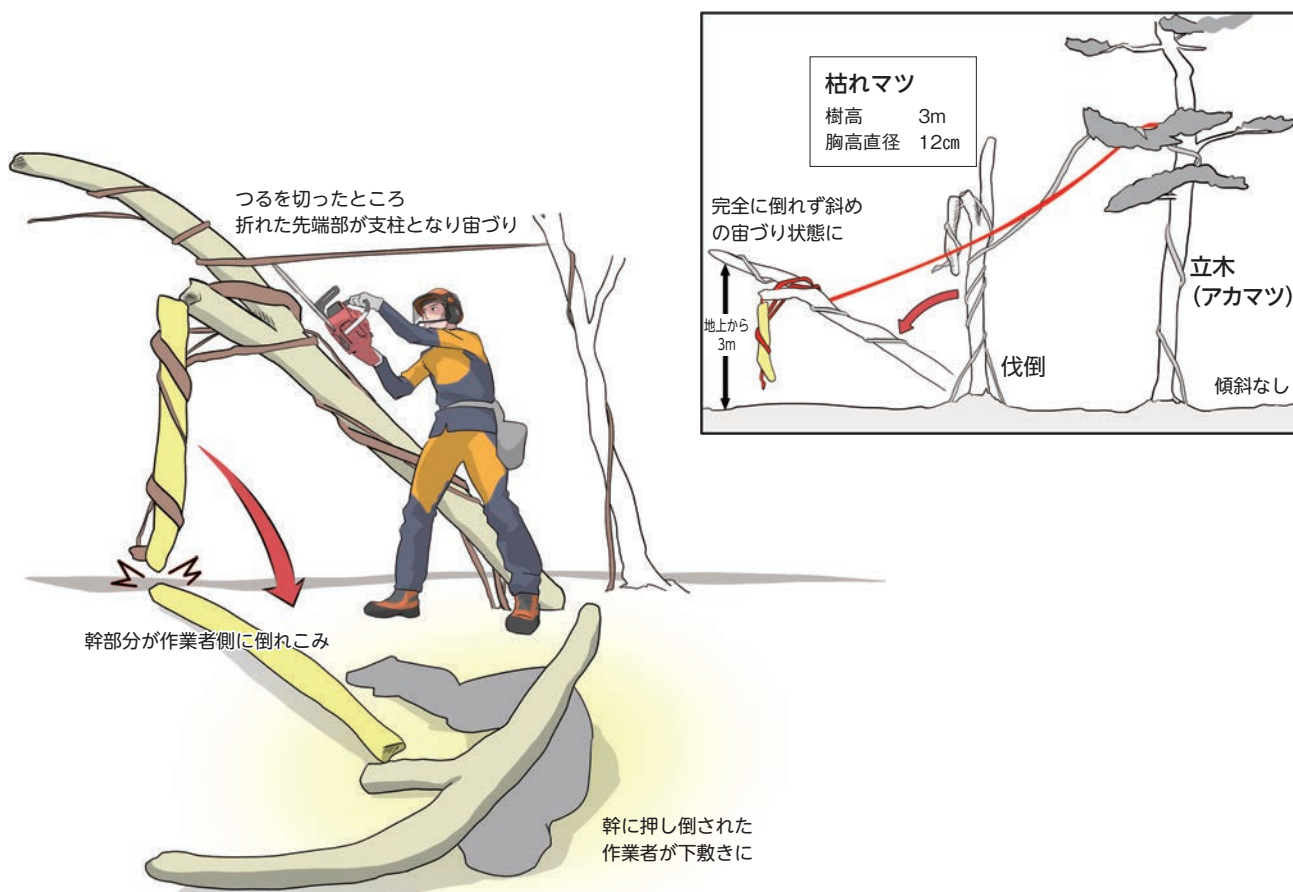
- ▶原因：つるがらみ ▶発生月：2月 ▶FW研修：2年目 ▶年齢：51歳
- ▶受傷部位：左胸 ▶傷病名：骨折 ▶作業内容：広葉樹皆伐

👤 発生状況

平坦地。広葉樹の皆伐作業。

枯れたマツ（直径18cm）をチェーンソーで伐倒したところ、枯れたマツが地上2mのところであつるにぶら下がるかかり木状態となった。

研修生があつるを切ったところ、枯れたマツが研修生の方に倒れはじめ、退避しようとして転倒したところに、その背中を押すかたちで伐倒木の先端部があたった。耳の後ろからの出血とめまいがあり3日間入院。



原因

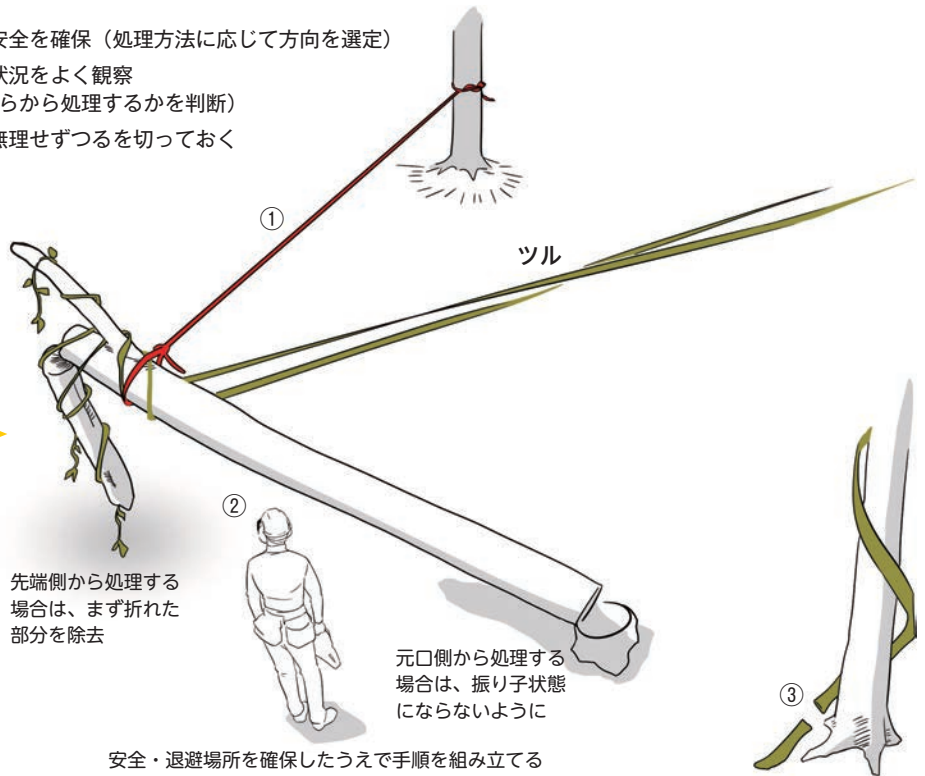
つるがらみの枯れた木(かかり木、枯れ木、つるがらみが複合した困難木)の処理。

再発防止対策

- 伐木困難木は研修生単独で実施せず、指導員、先輩経験者の指導・指示の下で実施。
- 伐木に取りかかる前に退避場所を決め、退避経路の障害物を除去する。
- かかり木処理は、ウインチ、チルホール等の補助器具を使用する。

- ① ロープで控えを取り安全を確保（処理方法に応じて方向を選定）
- ② 安易につるを切らず状況をよく観察（先端側／元口側どちらから処理するかを判断）
- ③ 処理が難しい場合は無理せずつるを切っておく

つるがらみの木を処理するときは、手間を惜しまないことが大切です。ロープ等を使い、控えを取り安全を確保して処理するようにします

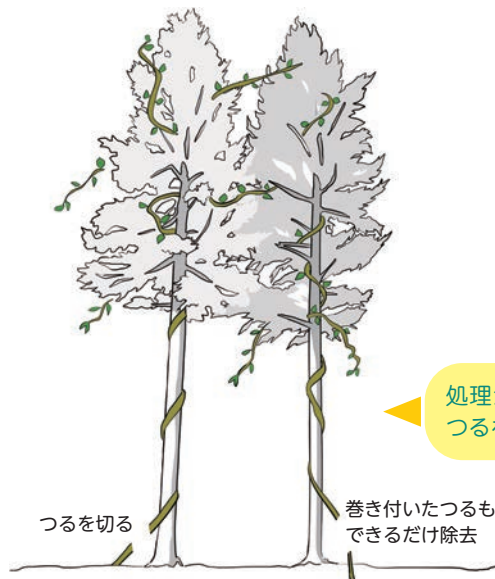


先端側から処理する場合は、まず折れた部分を除去

元口側から処理する場合は、振り子状態にならないように

安全・退避場所を確保したうえで手順を組み立てる

ロープを使って安全を確保



つるを切る

巻き付いたつるもできるだけ除去

処理が難しい木は無理をせず、つるを切っておきます

処理が難しい木は手を付けない